

金融・保険業

甲府信用金庫 様

# 「スモールスタートでき システム規模も手ごろでした。 帳票作成も容易で、 これなら使えると確信しました」

 甲府信用金庫


甲府信用金庫  
事務統括部 事務システム課 推進役  
成瀬 和人 氏



甲府信用金庫  
事務統括部 事務システム課 係長  
志村 直樹 氏

## CROWNIX Reportを選んだ理由

- 帳票出力システムとしての規模感が手ごろ
- 導入・保守費用がリーズナブルでスモールスタートが可能
- 帳票レイアウト作成・修正における優れた操作性

Webアプリケーションの帳票出力に課題を抱えていた甲府信用金庫は、手頃で使い勝手がよく、導入コストもリーズナブルなCROWNIX Reportを全店で採用しました。その結果、帳票出力にかかる手間を大幅に削減すると共に、現場の要望に応じた帳票レイアウトの修正も容易になりました。

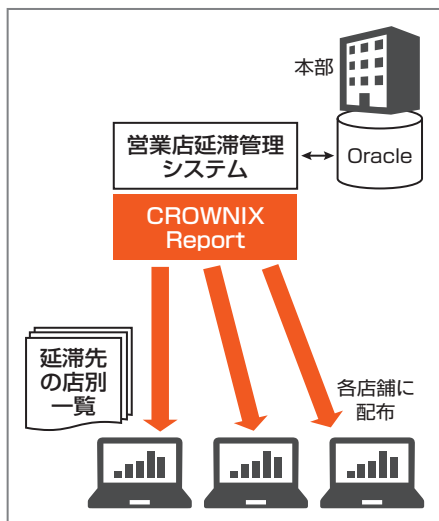
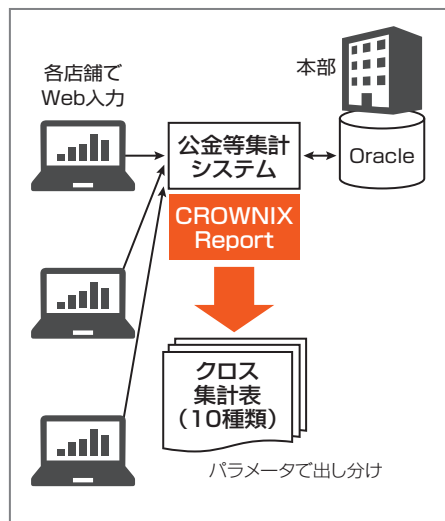
## 導入前

- 店舗や本部において、Webからの帳票出力が容易にできなかった
- 帳票作成に手間がかかり、店舗ごとに書式が異なることもあった
- Excelの複雑な帳票は、異動で作成者がいなくなると修正が困難

## 導入後

- 業務システムからデータを集計し美しいWeb帳票出力を実現
- 帳票を手軽に短時間で出力可能になり、統制も強化された
- 帳票のレイアウト変更や項目追加が容易かつ迅速に行える

## ■ 甲府信金様におけるCROWNIXReport活用例



## ▼ 企業情報



## 甲府信用金庫

<http://www.kofushinkin.co.jp/>

所在地: 〒400-0031  
山梨県甲府市丸の内2丁目33番1号  
TEL: 055-222-0231 (代表)  
設立: 1918年(大正7年)5月4日  
従業員数: 378名(2015年3月31日現在)  
出資金: 1,821百万円  
事業概要 甲府信用金庫は、1918年に地元  
の中小零細企業の金融の円滑化を図る  
ために設立されました。「地元との  
共存共栄」の精神のもと、「地元中小  
企業の健全な発展」、「豊かな県民  
生活の実現」、「地域社会繁栄への  
奉仕」の3つの基本理念を掲げ、積極  
的かつ堅実な経営を展開しています。

# Webアプリケーションからの帳票出力の利便性向上と統制強化を「CROWNIX Report」により短期間・低コストで実現

## Webアプリケーションの帳票出力を手頃な規模感・低コストで実現

甲府信用金庫様は、早くから自前で構築したWebアプリケーションを、さまざまな業務に利用しています。たとえば、顧客から預かった税金や保険料などの公金等集計システムや、融資の返済に関する延滞管理システムなどです。

Webアプリケーションはブラウザだけで利用できるのですが、支店展開などは容易ですが、帳票の出力に関しては限界があります。そのため、「店舗長会議などではわかりやすい出力が求められるため、データをCSVではき出し、都度Excelに移し替えて加工・出力していました。また、店舗ごとに書式が異なる場合があるなど、課題がありました」と、事務統括部 事務システム課 推進役 成瀬氏は語ります。

そこで、手軽にWebから帳票を出力できるツールを探し始めました。しかし、いずれもかなり規模が大きく高価で、なかなか手頃なシステムが見つかりませんでした。成瀬氏は、「以前C言語で座標軸を指定し、PDFで出力するツールを使ったこともありましたが、規模的には問題なかったのですが、あまりにも手間がかかりすぎました。その他のソリューションを探しましたが、いずれもコスト感が合わず、本格的な検討に至りませんでした」と語ります。

そんな折、2010年頃に取引先ベンダーから紹介されたのが、日本エムツーソフトの「CROWNIX Report」です。CROWNIX Reportは、企業内のシステムを横断してデータを参照し、それらを自在に組み合わせて帳票を印刷したり、ExcelやPDFに出力したりできるレポート基盤です。導入の決め手を成瀬氏は、「身の丈に合ったシステムの規模感で、価格も保守費用も手ごろでした。5ユーザーからスタートでき、実際に触ってみて帳票レイアウト作成も容易で、これなら使えると確信し、全店展開を決定しました」と話します。

店舗側でCROWNIX Reportを利用するにはブラウザがあればよく、初回利用時に自動的にモジュールがダウンロードされるので、ほとんど手間をかけることなく各店舗への展開を行うことができました。

## 多彩な帳票を簡単に作成可能になり 修正・変更も迅速に対応

現在CROWNIX Reportを利用している帳票は約30種類です。たとえば公金等の集計では、支店で顧客から預かった公金の納付書や自動振替の件数をWebアプリケーションで入力・送信すると共に、納付書に、公金の種類や枚数などが記載された添表を付けて本部に送りますが、

その添表と集計表をCROWNIX Reportを利用して各店舗で出力しています。一方本部の事務集中課では、全店のデータを集計して毎日集計結果を出力しており、そこでもCROWNIX Reportを利用しています。なお、CROWNIX Reportはアクセス制御機能もあり、店舗からは本店以外の店舗データは見えないようになっています。

導入効果について事務統括部 事務システム課 係長 志村氏は、「会議資料の中には、データをExcelに移してマクロなどを使い、何人かが手分けをして作っていた資料もあります。それをCROWNIX Reportを使ってボタン1つで出力できるようにするなど、大幅な効率化を実現しています。また、こういったマクロを使った帳票は、作成者が異動してしまうと誰もメンテナンスができなくなります。そういう意味で、CROWNIX Reportは項目を追加したりレイアウトを変更したりするのが楽にできるので、現場の要望を迅速に反映しやすくなりました」と評価します。

同金庫では、カードローンなどの督促状にも活用しており、定型の文章に宛先や日付、金額などの変わる部分を埋め込んで出力しています。この督促状は、徐々に内容が厳しくなっていく、最後は内容証明になるのですが、内容証明の文書は字数・行数の制限があります。「Wordでは、勝手に1行の文字数を変えてしまうのでうまく出せません。CROWNIX Reportなら、指定した通りに出力できます」と(成瀬氏)

同金庫では、CROWNIX Report導入により業務の効率化を達成したほか、属人性の高かったExcelベースの集計を排除することで全店舗の書式が統一され、報告書業務全体の統制強化も実現しています。

## 資料のビジュアル化など 帳票出力以外の機能も活用へ

このようにCROWNIX Reportを利用してきた同金庫ですが、現在バージョンアップを実施中です。新しいバージョンは、ユーザーインターフェースが一新され、さらに使いやすくなります。また、2016年中には人力機能も付加される予定のため、同金庫では、人力機能を利用して各支店からの報告業務効率化に活用したい意向です。

近年では会議資料などでも、表だけでなくグラフ表示などビジュアル化が求められています。CROWNIX Reportは帳票印刷だけでなく、グラフ作成機能や作成したグラフをクリックして明細を表示するなど、さまざまな機能を実装しています。これらの機能も活用していきたいと志村氏は、「今は帳票印刷にしか利用していませんが、もっと多用途に使えようと考えています。これを機に今一度CROWNIX Reportの操作研修を受けて、より習熟し、さらに活用していきたいですね」と抱負を語りました。

※記載された情報は全て2016年3月に取材されたものです。